



TECHNOLOGY 4

8. 汚染物処理

除染作業で回収したばいじん、焼却灰、汚染土壌、汚泥、煉瓦、耐火キャストなどの汚染廃棄物には、ダイオキシン類や重金属等により汚染され、埋立基準を満たさない場合があります。これらの汚染廃棄物は埋立基準以下に処理した上で場外搬出します。

可搬式ダイオキシン類無害化システム(特許出願中)

汚染煉瓦等の処理工法(特許出願中)

適用汚染物

- ・ダイオキシン類や重金属等に汚染されたばいじん、焼却灰、汚染土壌、汚泥など

特長

- ・可搬式処理プラントで施工現場へ運搬可能です。
- ・分解薬剤を添加混合し、比較的低温(300~400℃)で30~60分加熱して化学的に分解します。
- ・薬剤による分解処理のため、加熱時に還元雰囲気(酸素欠乏状態)は不要です。
- ・徐冷してもダイオキシン類の再合成がないため、冷却設備は不要です。
- ・ダイオキシン類を95%以上分解します。

処理フロー



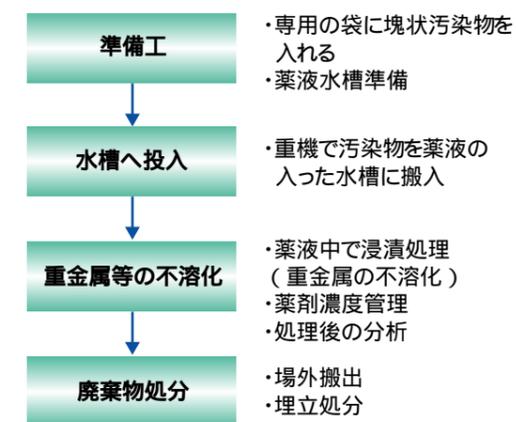
適用汚染物

- ・ダイオキシン類や重金属等に汚染された煉瓦、耐火キャストなど

特長

- ・現場で重金属の不溶化処理が可能です。
- ・粉砕することなく有姿で処理が可能です。
- ・現地の既存ピットを利用することができます。
- ・大規模なプラントは不要です。
- ・ダイオキシン類を含む付着ばいじんを除去します。

処理フロー



施工事例

施工場所:F焼却施設解体工事現場
 処理対象物:焼却炉内残置灰(約3t)
 残置灰中のダイオキシン類濃度を分解・低減させ、埋立基準を満たしていることを確認後、最終処分しました。
 ダイオキシン類の除去率は98.5%でした。



無害化処理後の灰



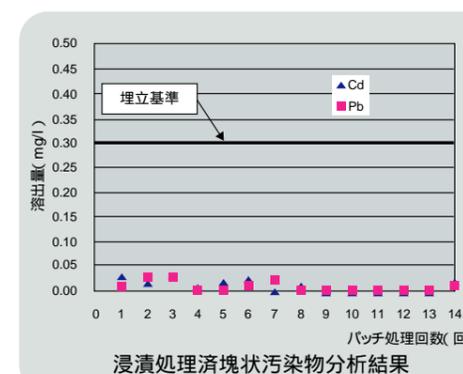
ダイオキシン類無害化プラント

施工事例

施工場所:Kごみ処理施設解体工事現場
 処理対象物:焼却炉内及び煙突内レンガ(約170t)
 埋立基準以上の塊状汚染物をバッチ数にして14回不溶化処理を行いました。
 塊状汚染物は処理後に13号試験を行い、埋立基準を満たしていることを確認後、最終処分しました。



煉瓦浸漬処理状況



汚染された煉瓦